

▶ 保育サービス業

高齢者雇用推進ガイドライン

～シニアベビーシッターのイキイキ積極的な活用に向けて～

公益社団法人全国保育サービス協会
保育サービス業高齢者雇用推進委員会



〈別冊〉

>>目次

- 第1部 シニアベビーシッターの活用に対する認識と積極的な活用のための着眼点
- 第2部 シニアベビーシッターの積極的な活用に向けて
- 資料編 就業規則：自社診断チェックシート

保育サービス業においては、ベビーシッターの高齢化が進む中、シニア層の活躍なくしては、多様化する利用者ニーズに応えるための十分なサービス体制が図りにくくなっている現状があります。本ガイドラインでは、シニアベビーシッターの活用に対する事業者およびシニアベビーシッター自身の認識を概観しながら、シニアベビーシッターがイキイキと活躍するための着眼点を探り、シニアベビーシッターの積極的な活用に向けてのポイントを5つのセッションに整理しています。別冊のシニアベビーシッター向けの読本も併せて活用ください。

シニアベビーシッターの活用に対する認識と積極的な活用のための着眼点

事業者アンケート調査の結果から、約8割の事業者がシニアベビーシッターの高齢化が進んでいると認識しており、うち60歳を超えても保育サービスの質が十分に担保できる活用策があり実行しているのは、2割弱にとどまっています。ベビーシッターの高齢化が進んでいると認識している事業者の多くは、こうした現状についての問題意識は持つものの、シニア層の雇用推進・積極的活用という観点から見ると、今後も大いなる議論・検討が必要になってきます。

また、シニアベビーシッターのアンケート調査では、全体の3/4のシニアベビーシッターが、50歳を超えてから、1/3を超える方が60歳を超えてからベビーシッターの仕事を開始したと回答しており、年齢を重ねてもチャレンジでき活躍できる職業であることがわかります。

【事業者の認識】

図表2 シニア家庭訪問保育者を活用するメリット(複数回答)



・・・シニアベビーシッターの活用メリット・・・

● 「働く時間のフレキシブルさ」

人材不足になりがちな日中や平日以外の家庭訪問保育において貢献

→多様化する利用者ニーズや一定のオーダー数に対応するためには、シニアベビーシッターの活躍が不可欠

● 「心のゆとりと安心感」

シニアベビーシッターならではの「心のゆとり」や「安心感、信頼感」

→事業者や利用者、ひいては子どもにとって大きな意義

・・・シニアベビーシッターを活用する上で不安に感じること・・・

● 「価値観や考え方の固執、勝手な判断」

- ・柔軟性に欠ける。自分の考え方をお客様に押し付けてしまう。
- ・人の話を流してしまう。決まったことをやらずに勝手な判断をする
- ・確認ミスがある ・身だしなみに気を配らない・仕事の選り好みをする

→「自身の日頃の仕事ぶりを振り返り、気づきを促す」ことが必要

● 「体力や思考力の低下」

- ・体力の低下が心配。子どもの動きに対応できなくなったり、十分な保育や子どもの安全を守れなくなるのではないかと感じる
- ・判断力の低下。子どもの安全確保に対する心配がある
- ・実際に、体力や思考力の低下が原因と思われるトラブル事例が発生している

→心身の健康管理には、本人の自覚とともに、事業者の積極的な関わり、働きかけが必要

【シニアベビーシッターの認識】

シニアベビーシッターアンケートから、今後の就業継続に対する考え方や仕事のやりがい、あるいは就業継続にあたって不安に感じていること等について見てみます。

・・・「健康で体力が続く限り保育の仕事が続けたい」がシニアベビーシッターの想い・・・

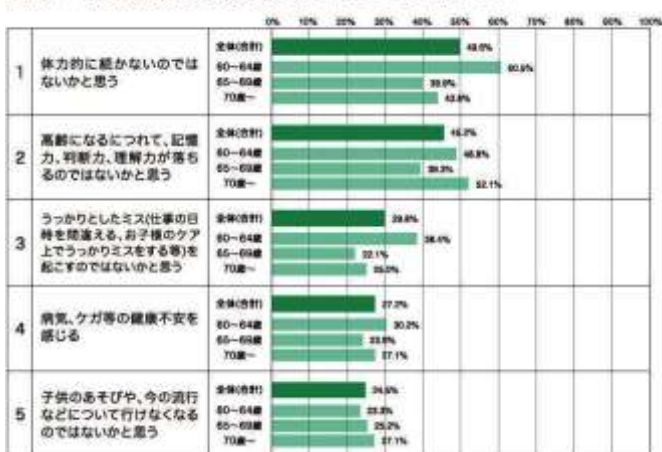
図表7 今後の働き方に対する考え



→「体が健康で、体力が続く限り、保育の仕事が続けたい」が83.8%となりました。70歳以上のシニアベビーシッターにおいては、91.7%という高い割合になっています。

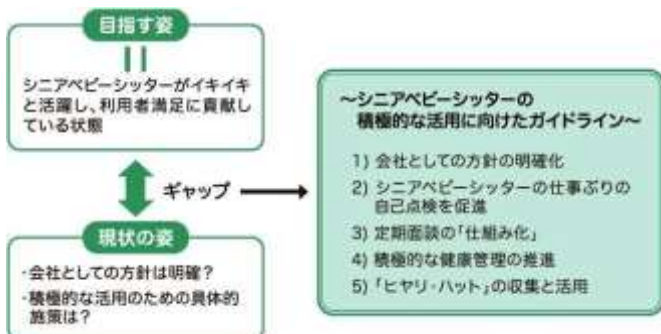
・・・体力、記憶力、理解力、判断力など、「身体機能の低下」が不安・・・

図表8 家庭訪問保育を今後も継続する上で不安に思うこと



→「体力的に続かないのではないかとと思う(49.6%)」、「高齢になるにつれて、記憶力、判断力、理解力が落ちるのではないかとと思う(45.2%)」で半数近い回答となりました。また、「うっかりとしたミスを起こすのではないかとと思う(29.8%)」や「病気、ケガ等の健康不安を感じる(27.2%)」も、3割近い状況です。

【シニアベビーシッターの積極的な活用に向けた着眼点】



シニアベビーシッターの積極的な活用に向けて

シニアベビーシッターの積極的な活用に向けた着眼点をガイドラインとして5つのセッションごとに整理していきます。各セッションでチェックポイントがあり、それぞれのテーマに沿って確認ができるようになっています。

Session1 シニアベビーシッターの積極的な活用に向けた会社としての方針の明確化

- 経営トップが、シニアベビーシッター活用の方針とスタンスを明確に打ち出す
- シニアベビーシッターの活用方針を、社内でも共通の認識として形成する
- シニアベビーシッター活用の方針に基づいて、積極的な活用のための施策を議論する
- 年齢(加齢)に対する必要なチェック機能が何かを明確にする

Session2 シニアベビーシッターの日頃の仕事ぶりについて、積極的な自己点検を促進

- 「仕事ぶりの自己点検チェックリスト」など、シニアベビーシッターが自らの仕事を振り返られるツールを作成する
- 作成したツールは、有効的な活用ができるように、使い方のバリエーションを検討する
- 「自己点検は本人任せ」にしない。面談など、直接的に会話できる場面での有効活用を優先する

Session3 シニアベビーシッターとの定期面談の「仕組み化」

- 定期面談の方針を固め、スケジュールを立てる
- 面談の目的を明確にし、面談の事前準備(シナリオ作成など)をする
- 評価すべき点、「自己の仕事ぶりチェックリスト」等の活用による本人へのフィードバック事項、会社としての伝達事項などをあらかじめ整理する
- 面談中、本人の様子で気になることがあったら、積極的傾聴を心がける
- 面談内容を記録し保管する

Session4 シニアベビーシッターに対する積極的な健康管理の推進

- ベビーシッターの健康診断受診と結果提出を徹底する方針を固める
- 年間で、「受診→結果提出→フォロー」のサイクルをスケジュール化する
- 面談や契約更新時などの機会を活用して、受診指示や結果提出を徹底する
- シニアベビーシッターの「心の状態」に目を向ける

Session5 ベビーシッターの「ヒヤリ・ハット」に着目

- ヒヤリ・ハット活動の重要性を社内でも共有し、事例を収集する
- ヒヤリ・ハット活動は、未然防止策の構築や研修、面談などで有効活用する
- KY訓練を研修などに取り入れ、危険感受性を高める工夫をする

Check !

<別冊>シニアベビーシッターの元気・イキイキ読本



第一線の保育現場で活躍される、シニアベビーシッター向けに作成されたものです。

ベビーシッターの責務は、子どもの安全を守り、子どもや保護者にとって安心した保育を実践することです。こうした観点から、この読本では、元気でイキイキと保育を続けるヒントが掲載されています。

▲アクティブリスニング(積極的傾聴)の実践